

22. 核医学報告書の自動ファイリングの試み 加藤千恵次他 ... 351
23. MCP 内蔵冷却 CCD を用いる放射線カメラの開発 三宅 正泰他 ... 351
24. がん診断を目的とする小型 γ 線内視鏡の開発と性能評価 Deloar H. 他 ... 352
25. SNC-5100R 型ガンマカメラ用コンバーティングコリメータの性能評価と
臨床使用法 吉岡 清郎他 ... 352
26. TPA-M ‘第一’ キットの使用経験 中駄 邦博他 ... 352
27. 核医学検査が有用であった骨梗塞を合併した Angiosarcoma の 1 例 吉田 悟他 ... 352

一 般 演 題

1. モヤモヤ病の ^{123}I -Iomazenil SPECT

丸岡 伸 山崎 哲郎 武田 賢
坂本 澄彦 (東北大・放)
白根 礼造 (同・脳外)

^{123}I -Iomazenil (以下 IMZ) は中枢性ベンゾジアゼピン受容体の antagonist である。モヤモヤ病における IMZ SPECT 像の特徴について検討した。対象は 12 例で男性 4 例、女性 8 例、年齢は 20-51 歳、平均 31.6 歳である。IMZ SPECT の方法は ^{123}I -IMZ 167 MBq 静注後 15 分および 3 時間をスキャンの中心時間としシーメンス社製 MULTISPECT 3 にて撮像した。検討の方法は IMZ SPECT 後期像と IMP SPECT 早期像を視覚的に比較したほか、IMZ SPECT 像に関心領域を設定しそのカウント値から検討した。IMP 像と比較し得た 9 例のうち IMP の集積低下の方が強いものが 1 例、一部で IMP の集積低下の方が強いものが 2 例で、残り 6 例は IMZ の集積低下がより高度であった。集積低下の部位としては側頭葉、前頭葉に多く次いで頭頂葉で、異常集積の出現率は IMZ が IMP の約 2 倍であった。

2. 穿通枝領域の脳出血に伴う大脳皮質神経細胞障害—— ^{123}I -Iomazenil と SPECT による研究——

畑澤 順 下瀬川恵久 佐藤 隆郎
菅野 巖 上村 和夫 (秋田脳研・放)

被殻出血 4 例、視床出血 1 例に ^{123}I -Iomazenil 167

MBq を投与し、3 時間後に脳内分布を測定した。血腫側大脳皮質では有意に集積が低下しており、血腫遠隔部の神経細胞障害が示唆された。

3. アセタゾラミド (DIAMOX) 負荷による終末呼気 CO_2 の変化と脳血流について

駒谷 昭夫 安久津 徹 間中友季子
小野寺祐也 山口 昂一 (山形大・放)

DIAMOX 負荷による脳血流予備能の定量評価には負荷程度の定量測定が必須である。負荷時の終末呼気 CO_2 濃度 (E-T CO_2) と脳血流の変化を DIAMOX 投与量や年齢との関連について検討した。安静時の ^{133}Xe rCBF SPECT 終了後 0.5-1 g の DIAMOX を静注し、同時に E-T CO_2 濃度の連続記録を開始した。DIAMOX の負荷により、E-T CO_2 濃度は平均 13% 減少し、その減少率は体重当たりの DIAMOX 負荷量に比例した。健常部の脳血流は平均 20% 増加したが、DIAMOX 負荷量とは相関が弱く、E-T CO_2 濃度や年齢とは相関しなかった。結果的に、負荷の程度の定量的把握はできず、DIAMOX による予備能の定量化は困難と判断した。